

▼2009年2月に撮影した秋田内陸縦貫鉄道の比立内駅。
マニュアル化される前のEOS 5D Mark IIだが、ノイズもうまく抑えられている。EF24-70mm F2.8L USM



高感度が強みを発揮した
冬の秋田内陸縦貫鉄道での撮影



▲EF50mm F1.4 で撮影。
肉眼では木々や山の稜線は見えていなかったが、映像ではそれがしっかり出ていた。

日 本全国を旅して、季節感あふれる鉄道映像を撮影している佐々倉実さん。その作品は数々のDVDパッケージとしてまとめられている。愛機はソニーのHDVカメラ、FX1。最近EOS 5D Mark IIでも撮影していると聞いて、さっそく取材した。

5D Mark IIは実は発売直後に購入。昨冬に撮影したのが、今回紹介した東北、北陸の冬の映像である。まず佐々倉さんが驚いたのが、感度の高さだという。明るいレンズが使えるということもあるが、たとえば肉眼では山の稜線が見えないほどの薄暮に撮影したカットでも、稜線が現れ、ノイズも少なく、かつCCDにつきもののヘッドライトによるスミアもない。

雪の中を駅に入ってくる列車のシーンでは、ヘッドライトに照らされる細かい雪までがはっきり映し出されていた。こっちはEF24-70mm F2.8L USMで、単焦点レンズではないのだが、感度も充分で、質感のある立体的な表現は、あたかもその場所にいるかのような印象を与えてくれる。

ビデオカメラで苦手な映像といえば、広角側だ。もともとは超広角の画が欲しくて5D Mark IIを導入したという。愛用しているレンズは、EF16-35mm F2.8L II USM。この16mm側で得られ

▼冬の北陸本線。夕陽のあたる橋の上を特急が大迫力で通過する。
EF16-35mm F2.8L II USMの16mm側で撮影。



EOS 5D Mark IIで撮る 驚きの 鉄道ビデオの世界

鉄道写真がブームだが、鉄道は音と動きを捉えてこそ魅力がある。EOS MOVIEは、鉄道ビデオでどこまで力を発揮するのか？今回、鉄道映像の専門家、佐々倉さんが撮った映像は、その可能性を十分に証明するものだった。



佐々倉 実さん

鉄道映像作家。小学生の頃から鉄道写真を始め、大学生の頃、当時鉄道員をしていた今井洋氏と出会って以来、製作活動をともしにする。現在は、佐々倉さんが撮影、今井さんが編集を担当し、雑誌やDVDパッケージを中心に鉄道ビデオを製作している。DVDに『魅惑の蒸気機関車 四季SL紀行』、『日本の鉄道 新幹線・特急編/蒸気機関車ローカル線編』などがある。今回EOS 5D Mark IIで撮影したカットは、2010年春に発売予定の『感動の美景鉄道(仮題)』(MAXAM)に収録される。鉄道写真どっとネット(<http://www.tetudousyasin.net>)を運営。



200mm超の望遠でも
フォーカスは問題なかった

函館市街を走る路面電車。EF70-200mm F2.8L IS USMの200mm側で、1.4倍のテレコンバーター (EXTENDER EF1.4×II) を使用した。フォーカスは置きピンだが、わりと手前から奥までフォーカスがきており、充分に使える映像になった。左下のカットの石畳の部分は、偽色が出やすいところだが、耐えている。



17mmのシフトレンズで函館の路面電車を撮る



▲そのまま撮るとパスがつく。



▲建物を垂直に直した。



アオリ撮影ができる
超広角レンズ
キヤノン
TS-E17mm F4L

▲レンズの光軸を撮像面に対して傾けたり(ティルト)、撮像面に対し平行に移動(シフト)させたりするアオリ撮影ができるのがTS-Eレンズ。新製品のTS-E17mm F4Lは超広角でアオリ撮影ができるとあって注目。実際に動画でも魅力的な表現ができた。

16mmの超広角で撮る北陸本線



▲EF16-35mm F2.8L II USMの16mm側で空を大胆に取り入れた構図。陸橋の上を貨物列車が走っていく。ここまで引いた構図でもはっきりと分かる解像度がある。



▲冬の氷見線。これもEF16-35mm F2.8L II USMの16mm側。列車の走行に合わせて、右にゆっくりとパンをしている。レンズに光が差し込む状況だが、しっかりコントラストがとれている。

るパスベクティブの効いた構図に、列車が入ってくる映像は新鮮な体験である。心配していたローリングシャッター現象も気にならない。

一方で望遠側だが、こちらはEF70-200mm F2.8L IS USM 2.1・4倍のテレコンバーターを使っている。被写界深度が浅すぎて動画では使いにくいのではないかと予想したが、ある程度絞ってしまえば、充分実用的だった。フォーカスはオートで追わず、基本的に置きピンで、列車が来る前にフォーカスを合わせたところの線路で合わせておくのだという。このときも5DマークIIのライブビューで10倍に拡大して確認できるので安心である。

今回は新製品である17mmのシフトレンズ、TS-E17mm F4Lを函館の路面電車撮影で試したが、これが見事に成功した。石畳から遠景までフォーカスを合わせて路面電車が街並を走るシーンを撮影したり、古い建物の前を電車が横切るシーンでは、建物の歪みを直すことができる。

今回、佐々倉さんが撮影してきた素材は、佐々倉さんご自身も驚かされたが、正直、編集部もEOSムービーが鉄道ビデオでここまで力を発揮するとは予想していなかった。スチルとムービーのハイブリッド活用は、この分野から始まると確信した。